

令和元年 5 月 22 日

◎土居委員長 ただいまから産業振興土木委員会を開会いたします。

(10 時 0 分開会)

本日の委員会は、きのうに引き続き、「令和元年度業務概要について」であります。

#### 《観光振興部》

◎土居委員長 日程に従い、観光振興部の業務概要を聴取いたします。業務概要の説明に先立ちまして、幹部職員の紹介をお願いいたします。

(部長以下幹部職員自己紹介)

◎土居委員長 最初に、部長の総括説明を受けることにいたします。なお、部長に対する質疑は、各課長に対する質疑とあわせて行いますので、御了承願います。

(総括説明)

◎土居委員長 続いて、各課長の説明を求めます。

#### 〈観光政策課〉

◎土居委員長 最初に、観光政策課の説明を求めます。

(執行部の説明)

◎土居委員長 それでは質疑を行います。

◎黒岩委員 非常にきめ細かく取り組みがされていることがわかりました。特に 10 連休は施設を中心に観光客も非常に多かったという印象を受けています。今回の自然・体験キャンペーンは、県下一円にわたってこの自然をリングとして取り組まれてるわけですが、通常のウイークデー、休日等以外の対策や取り組みについて各市町村の状況はどんな感じですか。

◎澤田観光政策課長 御指摘のとおり、ゴールデンウイークは非常に好調でして、このまま少し気を緩めますとやはり反動減があったりする可能性もございますので、そこは気を緩めることなく、先ほど御紹介しました特設ウェブサイトで新着情報を含めイベント情報、市町村等で展開されるイベント情報も含めて、きめ細かく情報発信をしているところです。

特設サイトへのアクセス状況につきましては、ゴールデンウイークと比較しますと確かに少し下がってはおりますけれども、平日平均で 2,000 件ぐらいは常にアクセスをいただいている状況ですので、ウイークデーに向けてもきめ細かな、タイミングを見計らった情報提供ができればと考えているところです。

また、市町村も、後ほど地域観光課から説明があると思いますけれども、各施設整備を含め、あらゆるイベントも積極的に取り組んでいただけるということで、まさに今回の自然・体験キャンペーンは全域の市町村が取り組みができるものだと考えておりますので、我々も精いっぱい連携して取り組みを進めてまいりたいと考えているところです。

◎依光委員 その受け入れのところで、周遊とか大分進んできたと思います。それで、い

ろいろと分析も進められているということですが、一つ、龍馬パスポートとかで一定お客さんがどう流れているというのわかるかと思えますけれども、そういうデータのなとこでこういう成果があったとか、逆にここら辺が弱いとか、そこら辺はいかがですか。

◎澤田観光政策課長 御指摘のとおり、龍馬パスポートの利用状況を見ますと、平成 30 年は 21 万人ぐらいの方がそれぞれ利用されていることがわかっていまして、一つは、エリア別で見ますと、関東それから近畿、もちろん県内の方が順番に利用が多いことがわかっています。使用先につきましては、道の駅等がトップでして、それに加えて観光施設、それから宿泊という順番で利用順は多いということになっています。全体の順位でいうと、ひろめ市場とかとさてらす、こちらのほうはお客様が多いわけですけれども、そういった核となる施設が地域地域にございますので、それを核として先ほど言いました、道の駅であったり、ほかの観光施設を周遊していただくような取り組みが、まさに観光クラスターの取り組みとしてできればいいのではないかと思っています。

少し弱い面につきましてはちょっと分析ができていないので、そこはまた努力をしてまいりたいと思います。

◎依光委員 さっき東が伸びたということですがけれども、例えば、空港を考えたとき、東に、例えば室戸に空港から行こうとなるとちょっと弱いんじゃないかなと。空港ビルと話をしたことがあるんですけども、今、龍河洞とかもやっているわけなんですけれども、そうなったときに、一つはレンタカーを充実させると。空港もこれから整備計画が立っていくと思うので、レンタカーが一つやと。あともう一つは、例えばアクトランドとかとうまく連携して、シャトルバスを野市の駅経由で一つつくとまた周遊が行けるんじゃないかとか、そんなこともお話ししてたんで、ぜひともそこは視点として入れていただきたいと思っています。

それから自然・体験型キャンペーン、これはほんとに全県下でやれると思います。その中で、きのう中山間振興部と話をしたときに、集落活動センターのちょっとした収益源になるんじゃないかとお話をさせてもらいました。ことしは予算で「うちんくのビジネス塾」という、集落活動センターが中心となって収益事業をつくろうという事業ですけれども、それで自分が言わせていただいたのは、集落活動センター全体でやると意見がまとまらなかったり大変だったりするので、例えば小さい民泊であるとか食事の提供とか、1回当たり二、三万円利益が上がって、それで働いた方にお金が出せて、集活センターにもお金を家賃みたいな形で入れられるみたいなのをどんどんやりながら、人が集まる成功体験をどんどんつくっていったらというお話をさせてもらって、そういう意味で言ったら、「観光創生塾」とか含めてノウハウを持たれてる方がいらっしゃると思うので、「うちんくのビジネス塾」はそこはそこで、また、アドバイザーをとということやと思いますけれども、観光面のところの連携もしていただきたいと思っています。

今、自然・体験型キャンペーン、中山間の振興にもつながるということですが、そこら辺はどういう意気込みでしょうか。

◎澤田観光政策課長 1点目の空港から東の面につきましては、土佐くろしお鉄道にも御協力をいただきながらフリー切符等もやってまいりたいと思いますし、実行委員会にはレンタカー協会様も御加入いただいておりますので、そちらと一緒に割引等ができればいいなと考えているところです。それにつきましても、実現に向けて努力をしてみたいと考えています。

また一方で、集落活動センターにつきましても、ぜひ、我々と一緒にキャンペーンに取り組んでいただきたいと考えておまして、例えば、田舎ずし体験であったりとか、魚つかみ体験であったりとか、集落活動センターが主体的になった取り組みが非常に受けがいいというお話も聞いているところですので、先ほど申し上げました特設サイトでもそういった取り組みについては情報提供することもできますし、もちろん「土佐の観光創生塾」でも歓迎するところですので、一緒に御参加をしていただければ大変ありがたいと考えているところです。

◎大石委員 3つほどお伺いしたいんですけれども、一つ、フェリーのお客さんが減っているのは中国の影響じゃないかなと思うんですけれども、今後の見通しとか戦略みたいなものをどう考えておられるのかなというのが1つ目です。

2つ目は、龍馬記念館のリニューアルとかいろんなイベントだったり、箱のリニューアルとかで、観光客好調というのはすばらしいことだと思いますけれども、一方で3泊4日以上のお客さんは平成26年比で言ったら、全体的にかなり減少傾向にあると思うんですけれども、これについてどう評価されているのかということと、あと、日が延びれば延びるほど、そのお客さんの単価といいますか消費額はどういう傾向があるのかとか、あと、長期滞在している人は1泊2日に比べて、要は結構お金を使っているのか、それとも薄く使って長くいる傾向にあるのかという、長期滞在に関する件が2つ目です。

3つ目は、所管が違うかもしれないんですけれども、産振の中で自然・体験キャンペーンとかもちろん位置づけられていますが、企業の創出とかも産振の重要な計画ですけれども、いわゆる観光ベンチャーといいますか、地域で観光で飯を食っていくというような人たちがどういう状況なのかとか、そういう人に対する働きかけとかはどういう状況なのかということと、それから、「高知版 Society5.0」とか新技術をいろんな分野に応用していこうと、これ主に課題解決なんですけれども、観光分野でもかなり使えることが将来的にあるのではないかなという気がするのですが、そのあたり産振との連携の部分になりますけれども、何か取り組みをされていることとかあれば教えていただきたいと、この以上3点お伺いできたら。

◎澤田観光政策課長 まず、1点目のクルーズ客船につきましては、こちらは専ら土木部

の港湾振興課が所管になっておりまして、そちらが今後の展開などの戦略は立てていくことになるかと思えます。ちなみに、平成 31 年度は少し隻数が減少するのではないかとという見通しは聞いています。

2 点目の 3 泊 4 日が減少しているということは、まさに御指摘のとおりでして、こちらを伸ばしていく必要があると考えています。先ほど依光委員からも御指摘がございましたように、その対策としては、一つは周遊促進で、より広域で動いていただくことができれば泊数もふえていくのではないかと考えていますので、そのあたりの手立てを講じていくことと、先ほどの傾向につきましては、3 泊 4 日等の長期滞在をしていただくほうが単価は上がる傾向がございますので、ぜひ、そのあたりは力を入れていきたいと思っております。ただ、一方で、高知県内にお越しになられる県外の皆様というのは、四国島内からも来られる方も多いため、そういった方についてはより単価を上げて消費していただく、例えば、お食事をワンランク上にするとか、そういった消費額自体のアップも目指して、両輪で目指していきたいと考えているところです。

それから、もう 1 点の産振の企業の創出というところですが、まさに先ほど少し御説明をしました「土佐の観光創生塾」を観光振興部では取り組んでいまして、そちらでは観光で起業を目指す方をもちろん大歓迎でお迎えをして、旅行商品の造成まで一気通貫で支援をするような取り組みをしており、観光創生塾を通じて起業された方も中にはおいでると承知をしているところです。

最後に、新技術の部分ですけれども、まだまだこれから我々も検討していく必要はございますけれども、まさに先ほどありました観光、県内においていただいている観光客の皆様様の動態などを踏まえた上で、例えば、AI でどういう分析ができるか、どこへ立ち寄りができるかといった形で活用していける余地はあるのではないかと考えておりますが、また、その分野につきましてはこれから検討というところです。

**◎谷脇おもてなし課長** クルーズ客船について少々補足をいたします。

クルーズ客船の減少につきましては、土木部の港湾振興課から詳しく説明があると思えますが、委員がおっしゃったように中国の大型客船が多いものでして、その客船が減ったことによりまして人数の減少に響いております。

ただ、港湾振興課としましては、何回も来ている客船とかもございますので、そういったところに、よりセールスをかけるとか、高知新港のクルーズ港としての力は随分ついてきていると評価も高うございますので、そういったところをしっかりとクルーズの船社あるいは旅行会社にセールスをかけて、引き続き寄港していただけるような取り組みをしていくと港湾からは聞いております。

**◎大石委員** よくわかりました。1 点、3 泊 4 日、4 泊 5 日、5 泊 6 日以上というのが平成 26 年からいうと全部減っているのですけれども、その要因をどう分析されていますか。

◎澤田観光政策課長 要因は、さまざまなケースが考えられると思っています。例えば、先ほど御説明しましたように、平成30年度につきましては天候が悪かったところもございます。それは県内に限らず、先ほど言いました県外がどういう影響を受けるかということもございますので、一律には言えないところもございますけれども、我々としては3泊4日の部分をふやしていく必要があると考えておりますので、そこに対しては先ほどの手だてを講じていきたいと考えます。

◎大石委員 これは、四国のほか3県も同じような傾向なんでしょうか、それとも高知だけの傾向ですか。

◎澤田観光政策課長 四国3県の状況は今データを持ち合わせておりませんので、お答えができない状況です。申し訳ございません。

◎石井委員 一つだけ教えてもらいたいのですけれども、観光入り込み客数が435万人の定常化ということですが、何年か前は年ごとに目標があって、令和になりましたけれども平成37年には470万人を目指すみたいなことだったと思うのですけれども、その辺の目標設定は残っていて、そこに向かっているのでしょうか。

◎澤田観光政策課長 目標設定自体はしておりますして、現在のところは435万人の定常化という形をしておりますけれども、産振計画の第3期計画が始まる時には10年後の目標設定もしておりますので、そういった面では、まださらに上方の目標を目指してまいりたいと考えているところです。

◎田中副委員長 435万人観光の定常化という話ですけれども、以前、お伝えしたことがあるかもしれませんが、高知県の観光にとって、どうしても入り込み考えたときに冬が弱いと思うのです。その冬の時期、これまでキャンプの誘致だったり、スポーツツーリズム通じてとなってきたのですけれども、今回、また、この自然・体験型キャンペーンで、キャンプ場の整備も含めて比較的暖かい時期は誘客できると思うのですが、冬の時期の対策は、高知県の観光の戦略的なこととしてどういった対策を立てられているのか、大きな話でお聞きをしたいと思います。

◎澤田観光政策課長 まさに御指摘のとおり、高知の少し弱い面でいうと、冬場をどうしていくかということが課題であると考えているところですが、例えば、先ほど私のほうで御説明を差し上げました「高知城 光の祭 チームラボ」なんかは、この冬季対策ということで一定の盛り上がりをつくるイベントとして展開したところですので、こういったところで新しい話題をつくっていくということもあるでしょうし、県内には例えば、温泉なんかも数多くございますので、そういったところも含めて、県外に向けて情報提供をしていくイメージを持っているところです。

◎田中副委員長 後でまた国際観光課に聞いたらいいかもしれませんが、外国人の方の誘客、訪日の方、高知県へ入ってこられる方のその動向、傾向はやっぱり季節的なもの

のがありますか。

◎小西国際観光課長 外国の方の宿泊の傾向ですけれども、それぞれの市場ごとに若干違ってきておまして、例えば、今一番高知に多い台湾ですと、台湾での夏休み7月、8月でありますとか、あと、旧正月の時期はやはり訪日の客が多くなっている傾向がございます。それで先ほどの冬の対策にもつながるかもしれませんが、インバウンドの部分で、例えば、韓国等ですと冬場ゴルフができないという声も聞いておりますし、あと、ちょうど冬場の時期が中国とかは旧正月の時期にも当たりますので、ことしも台湾からチャーター便が旧正月の時期に入ってまいりましたので、そういった誘致を強めていくことと、あと、冬にできるゴルフであるとか、そういったものもツアー造成をこれから進めていきたいと考えております。

◎明神委員 地域観光商品造成等委託料についてですけれども、現在造成されている旅行商品、周遊による観光消費の拡大を目指すということですが、現在造成されております旅行商品について紹介していただきたいです。

◎別府地域観光課長 観光創生塾の取り組みになってくるかと思っておりますけれども、主に昨年度は、OTAの登録を目指して旅行商品化に取り組んできたところです。県内で多くの商品ができておまして、例えば、伊尾木洞の体験ガイドとか、あるいは室戸のドルフィンセンターと廃校水族館なんかをセットにしたプラン、それからお菓子づくりの関係で、浜幸のかんざしづくり体験と菓子工場の見学とかいう形で、いろいろ楽しい商品ができてきております。

OTA、オンライン・トラベル・エージェントといたしまして、インターネットで申し込みができる取り組みです。

◎明神委員 どんどん魅力ある旅行商品を造成して、誘致に努めていただきたいと思えます。

◎土居委員長 それでは観光政策課を終わります。

#### 〈国際観光課〉

◎土居委員長 次に、国際観光課を行います

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

◎黒岩委員 昨日、国の観光局の発表で、この4月単月で訪日客が過去最高だという報道がされていたんですけれども、5月の連休等も含めて恐らく相当の訪日客が来られていると思うのですけれども、高知県はどんな感じですか。

◎小西国際観光課長 高知県の数字ですが、観光庁の統計によりますと、平成30年の1月から12月の速報値がございまして、延べ宿泊者数になりますが、全体で申しますと7万6,100人泊ということで、2017年の同期比1年と比べますとほぼ同じ、100.9%という数字

にとどまっている状況です。

◎黒岩委員 新たに8市場において誘客の促進を図るというお話がございましたが、今、直行便が松山と高松にあると思うのですけれども、四国観光という視点で、どれだけ四国全体としての動きで高知に来ているのか、誘客しているのか、宿泊が実際あるのか、それからどういうところに観光に行かれているのか、どういう状況ですか。

◎小西国際観光課長 先ほど申しました7万6,100人泊の内訳ですが、台湾が27%、香港が25%、中国が15%、韓国が12%となっております。

委員の御指摘の高松空港とか松山空港を活用したお客様が、高知県内にどれだけ周遊しているのかですが、確たる数字、データはないのですが、海外の旅行エージェントとか、あと、県内の宿泊事業者の皆さんからのヒアリングとか、そういった関係者の方々からのヒアリングも合わせますと、台湾につきましては、高松空港が毎日運航になっています。そのこともございまして、高松空港を利用して四国を周遊をされるツアーというのがかなり入ってきているということで、台湾のお客様の中でも約半分以上は四国を団体で周遊をされるツアーではないかと分析をしているところです。

周遊先につきましては、団体旅行ですので、高知城でありますとか、あと、四万十川、それから足摺岬、そういった定番の観光地を回っていただいている。愛媛は道後温泉でありますとか、香川は琴平、そういったところを回られるツアーが主流になっております。

◎黒岩委員 四国観光の動きというものを四国全体でさらに拡大をしていっていただきたいと思います。

それと、せっかく12月からジェットスター・ジャパンが成田と関西から来ているわけですから、これを利用せん手はないと思いますが、そのあたりの動きはどうなんですか。

◎小西国際観光課長 ジェットスター・ジャパンの利活用ですが、ジェットスター・ジャパンの方にお伺いしますと、全国いろいろな路線ございますが、押しなべて大体外国の方の利用は約10%ぐらいではないかと口頭でお伺いしております。外国の方に成田、それから関空からも御利用をいただけるように、海外の旅行エージェントにそういった成田経由でありますとか関空経由で高知へ入ってくる、そういった旅行商品でありますとかモデルコース、そういったものを今もお願いをしておるところです。

ただ、今いろいろな地方へ路線もできておりますので、お客様によってはダイレクトで入っていく選択をされるお客様もいらっしゃいますよということは現地の旅行会社からも聞いておりますが、せっかく就航いただいておりますので、そこを活用してインバウンドの誘客という部分、そういった視点は我々も持ちながら関係機関にセールスしていきたいと考えております。

◎黒岩委員 きこの交通政策課でも若干目標値よりも低いということを言われてましたので、何とかこの就航を永続していくためには乗っていただかないかんわけですから、その

あたりも含めてまた頑張っていたきたいと思います。

◎大石委員 2点お伺いしますが、1点は30万人泊ということですので素晴らしい目標だと思うのですが、一方で、そのベッドの数とかそういうのが十分足りているのかということがあると思うのですが、現状の宿泊施設で30万人来たときにきちんとできる体制があるのか、あるいはA i r b n bなんかも最近はやっていますけれども、30万人を目指すときに、そういう民泊もさらに活用していくというお考えなのかどうかを1つ目にお伺いしたいと思います。

それから、もう一つはよさこいの件ですけれども、新規事業で海外のチームが自由に活用できるということで、これはこれであつたらいいんじゃないかと思うのですが、今、正調とそれから総踊りで言ったらあと二つぐらい、これまでに高知県として取り組んできた、あるいは民間の皆さんが取り組んできたものがあると思うのですが、屋上屋を重ねるようなことにならないのか、そこの調整とか、あんまりたくさん曲があつて、どんどん広めていって一貫性がなくなるといいますか、こういう懸念もあるような気がしたのですが、そのあたりどうお考えなのかと、2つお伺いしたいと思います。

◎小西国際観光課長 まず、1点目です。30万人泊ということで大きな目標を掲げております。先ほどもございましたように他県との比較もございまして、他県はまだまだ伸びている基調にもございますので、その要因なんかもしっかりと把握しながら施設環境をもっとよくしていくとか、あと、課題にも挙げておりますけれども、キラーコンテンツ、ゲートウエーとなるようなコンテンツをしっかりと海外でアピールしていく、そういったことを重ねながら、産振計画で10年後の目標で30万人泊というのを4年前に立てておりましたので、それを少し前倒しをしていく勢いで伸ばしていこうと、30万人泊という目標を掲げさせていただいております。

委員の指摘のありましたベッド数とか部屋数ですが、オールシーズンで考えたときには、30万人泊を受け入れるキャパはあるのではないかと考えておりますが、おっしゃるように、ピーク時には部屋がなかなかとれないという声は聞いております。例えば、よさこいのシーズンであるとか、日本のお客様が多く動きます秋の連休とか、ゴールデンウィーク、そういったところでは、団体で今動いているお客様が多くいますので、そういった固まった部屋がとれないという状況は、現地のエージェントからも入っております。

そうしたこともございますので、今マーケット全体は個人のお客様がふえてきている傾向もあり、これからは個人のお客様をいかに取り込んで、小規模のお客さんをいろいろな宿泊施設に送り込んでいくのを、一つ方法として考えていきたいということと、あと、民泊の活用ですけれども、そういったピークシーズなんかにはどうしてもA i r b n bなどにとって宿泊をされるお客様もいらっしゃるという状況も聞いておりますので、そういった手続きがきちっとできている施設については御案内もしていきたいと考えております。



◎宮地企画監 よさこいの海外で自由に使える曲づくりについてです。平成 28 年度から、よさこいアンバサダー制度ということで海外でよさこいを広めていただくための制度を行っております。現在 16 カ国で行っておりますが、海外から聞こえてくる声が、自分たちのオリジナルの曲、ノウハウが少ないであったりとか、海外でそういう曲づくりをするのに経費が高いというお話もいただいております、これまで県内のよさこいチームの方に構わない曲は提供くださいとかいうお話もしているところです。

正調よさこいにつきましては、高知のよさこいを体験していただく第一歩ということで皆さんに覚えてもいただいているのですけれども、特に、今 J I C A で日系社会短期ボランティア派遣としてパラグアイとかアルゼンチンに行ってください、正調よさこいをしっかり皆さんが楽しんでいただいている状況の中で、次にもっとバラエティーのある、また違う踊りも踊ってみたいという声もいただいております。

そういうところで、著作権がなくてどなたでも使っていただけるものを県でつくってはどうかと考えておまして、委員がおっしゃいましたように総踊りもあるのではないかとこのお声もいただいて調べましたら、総踊りのほうは複数チームで踊ることが原則であるといった権利関係の問題とかもございましたので、そこを勘案しまして、県で、ことしつくらせていただくことになりました。この曲をつくるに当たっては、よさこい節を取り入れるですとか、前進をするような隊列をつくる動きを入れるということを条件にしてつくることとしております。

◎大石委員 民泊の件ですけれども、この数年で一気に何かふえた感じも、A i r b n b とか開いたらあるのですが、何かその数字みたいなものは把握されていますか。

◎澤田観光政策課長 御指摘の民泊、いわゆる住宅宿泊事業法が施行されまして、観光庁が取りまとめを今現在しております。昨年の 6 月からことしの 1 月までが直近の数字で公表されておまして、高知県は累計で 1,041 人泊という数字が出ているところです。

それと、こちらのほうは届け出制で受け入れるところが決まっております、県内全体では 25 件が届け出をされておまして、高知県分としては 14 件で、保健所設置市については別途権限移譲することによって展開ができますので、高知市が残りということになります。

◎依光委員 よさこいに関してずっとやらせてもらっていて、宮地企画監も相当御苦労されていると思うのですけれども、一つエールを送るといいますか、オリンピックでよさこい演舞ということで、かなりハードルも高いと思うのです。できることを信じているのですが、ただ、今回やってみて一番よかったのが、全国のよさこいの関係者とネットワークがつくれたことではないかなと思うので、そのネットワークを次にどうしていくかということも踏まえた上で、高知としてどうやっていくかは考えたほうがいいと思います。

香美市は北海道とのつながりがある、いろいろと自分らができる範囲でお手伝いもさせてもらうたのですけれども、皆さん、県外の方が言われているのは、高知に行ってみよう

し、リスペクトというのはあると。その中で高知の人間のほうがしっかりよさこいをもう1回勉強するべきではないかと、去年も質問させてもらいましたけれども、一つは若柳由喜満先生の関係で一番最初の正調のところをもう1回教育現場に持っていこうという話もしています。具体的に企画を今つくっているところで、まだ、情報提供できないところですが、そういうのも含めて、正調をしっかりやっていくということと、それともう一つは、よさこいというのは県がしっかりやるんだという意思表示をやってもらいたい。議会で質問していても、高知市があり、商工会議所がありということですが、世界とか全国を相手にするとなると、県が前に出んと前に進まないかなということも感じます。

そういう意味も含めて、無形文化財みたいな話も出てきていますけれども、高知県としてよさこいに対してやるぞという、オリンピックが終わったら、このプロジェクト全部消えていくんじゃないかって、長期スパンに立っていただきたいと思えますけれども、大きい話になったので、部長いかがでしょうか。

**◎吉村観光振興部長** まず、正調よさこいの教育現場への普及といたしますか、児童生徒の皆さん方に正調よさこいの意義を知っていただくという取り組みにつきましても、教育委員会でも取り組みをさせていただいておりますので、誰ともこの取り組みを応援するような形で関係、よさこい祭振興会ですとか競演場連合会の皆さん方ともタイアップをいたしまして、この活動を支援していくことをやっていきたいと思っております。

今エールを送っていただきましたように、よさこいの世界のネットワーク、国内ネットワークづくり、よさこい祭振興会とか高知観光協会が伝統でずっと引っ張ってこられた祭りではありますけれども、この国内外のネットワークに関しては私ども高知県が前面に立たせていただいております。

それで2020よさこいで応援プロジェクト実行委員会の理事のメンバーにつきましても、今お話がありましたように北海道のソーランとか、それから京都の龍馬よさこいのように、それぞれのブロックで活動の中心としてよさこいを普及していただいている皆さん方にも理事にもなっていただきましたので、高知県が中心になってよさこいで日本を、そして高知を有名にしていく取り組みについてはアドバルーンを上げることができていると思えますけれども、そういうエールをしっかり背中に受けまして、さらに、よさこいのオリンピック開閉会式での演舞につながるようにしていきますとともに、せっかくつくったネットワークですので、よさこい、この東京オリンピック・パラリンピックの演舞が終わりましてもこのネットワークの意義を皆さん方と共有しましてどういう形で発展をさせていくのか、ぜひ、協議も深めていきたいと思えます。

**◎明神委員** 外国人の団体また個人の旅行者を拡大する中で、新規商品を開発する中へその「土佐れいほく博」、これもぜひ、組み入れた商品を造成していただいて、拡大誘致に努めていただくことを要望しておきます。

◎小西国際観光課長 「土佐れいほく博」につきましても、徳島の大歩危、祖谷のほうにも外国の方が来ておるといふ事例がございますので、そういったところからもう一步二歩高知に来ていただけるプロモーション、これは徳島とか高松空港なんかとも連携をしながらやっていきたいと考えております。

◎田中副委員長 何点か教えていただきたいんですけども、昨年度、特に台湾からのプログラム・チャーターを組んでやっていただいたと思うのですが、搭乗率であったり利用状況をお教えいただきたいと思ひます。

◎小西国際観光課長 ことしの1月から2月にかけて、台湾のほうから7往復のチャーター便が高知空港に就航をしております。2便分は日本のお客様がアウトバウンドで利用したということもございましたが、全体で搭乗者数はインバウンドの台湾のお客様が767名という数字になっておりまして、90%を超える搭乗率になっております。

それから推計にはなりますけれども、それぞれ5つの旅行会社が旅行商品を販売をしてチャーター便で送客をいただいたのですが、高知1泊の商品もございましたし2泊の商品もございました。それで旅行会社からのヒアリングによりますと、高知県内の宿泊数は全体で1,400泊程度あったと分析をしております。

◎田中副委員長 一定成果をおさめられてると思ひますけれども、今年度の台湾も含めた国際線のチャーター便の計画、決まっている分があればお教えいただきたいと思ひます。

◎小西国際観光課長 今年度につきましては現在誘致活動を進めているところでして、決まったものは今のところございませんが、9月、10月あたりからチャーターの運航を検討いただいている航空会社が台湾、それから韓国にもございますので、今、鋭意そこをしっかりと実現できるように営業セールスをしている状況です。全体につきましては、今年度、高知龍馬空港へのチャーター便の就航は30往復を一つの目標に掲げて、秋、それから先ほど申し上げました旧正月、そういった部分も含めまして、年度で30往復を一つの目標にして今鋭意営業活動をしております。

◎田中副委員長 ターミナルの新設、供用開始が平成33年度ということ、そのときに100往復という目標も立てられていると思ひます。今のところなかなか国内線の定期便との兼ね合いもあって、その運航時間等々の制限もあるということもお伺いしていますし、スポットの数なんかもあるかと思ひますけれども、その100往復に向けて、ことしが30、じゃあ来年度は50なのかなと、そこで100まで持っていくのかな、なかなか大変な数字だと思ひます。ただ、今年度、来年度の2カ年がその100往復に向けての未知数というか、険しいものがあると思ひます。今お伺いしたように、台湾だけでなく、韓国もそうやって道ができるみたいですので、ぜひ、この2年間頑張ってください、新ターミナル供用の開始の際には、いろんな国から来れるようなそういったチャーター便を計画していただきたいと思ひます。

◎土居委員長 それでは国際観光課を終わります。

暫時の間休憩とします。再開は、午後1時15分といたします。

(昼食のため休憩 11時28分～13時15分)

◎土居委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

〈地域観光課〉

◎土居委員長 次に、地域観光課を行います

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

◎依光委員 最後に御説明があった観光拠点の需要調査、これ非常に期待していきまして、県内各地に新たな施設が生まれていて、この流れを進めていただきたいと思います。議会でもいろいろ質問もさせてもらったところですが、市町村が企業にプレゼンして売り込むとか、そういうことのフォローも必要かと思えます。去年もやられて、ことしということですが、市町村への説明会も多いということで、積極的に取り組まれているとは思いますが、どんな状況でしょうか。

◎依光企画監 市町村への説明会を先週2日間にわたって行いました。東部、中部、西部の3カ所で行いまして、市町村の方が参加しやすい地域で開催をいたしました。その中でこの事業の目的ですとか事業概要を説明していただくとともに、実際にそのキャンプ場やそういったところを運営をしている民間企業の方に取り組みについて紹介をしていただいたり、例えば他の市町村にコンサルタントに入られている方に、他県ではこういう事例がありますといった具体的なお話をさせていただきました。そのことで市町村も新しい事業でわかりにくいところがあったかと思うのですが、割とイメージをしやすくなったとか、行政の会議でこういったお話を聞いたことがなかったので大変興味深かったという感想をいただいております。

企業に対するプレゼン資料につきましても、連携、委託をしている企業が、企業がどういった情報を受けると動きやすくなるかといったことや、私どもは市町村の状況がわかりますので双方で連携をして、そのプレゼンにつきましても全面的にフォローしていきたいと考えております。

◎依光委員 すばらしい取り組みをやられていると思うので、全ての市町村が参加すべきや、今、公共施設をどうするかというところは、多分これから廃止になっていくところもふえていくと思うのです。ただ、施設整備を過去にやって、そこが老朽化しているというところを見方を変えて、投資して復活できるのであればそれにこしたことはないと思いますので、そんな視点でやることによって将来負担も減るし、ウイン・ウインになること

も、ぜひやっていただきたいと思います。

それともう一つ、観光協会との関係で、いろんな観光協会、県でいうたらコンベンションがカウンターパートみたいな形でいくと、市町村のカウンターパートみたいなところで観光協会がしっかりしたところやと、取り組みに幅が広がっていくし、観光もある意味1年前に想定していた、予算をつけたときに想定していたこと以外のこともできて、臨機応変に対応するといったときには、観光協会にノウハウがあつてそれなりに一緒に動けるといことも大事かと思います。協議会とかも含めて今まで観光協会とのやりとりもふえてきましたけれども、そこら辺、組織的に見てどういうお考えか、お聞きしたいと思います。

◎別府地域観光課長 観光協会ですけれども、委員お話のとおり、観光を進める上で行政と民間レベルでの取り組みが非常に重要と考えておりまして、今、地域のほうでも新しく観光協会を立ち上げようという動きが進んできております。自分も聞いているのが日高村も観光協会をつくりたいという話も聞いておりまして、行政でできる部分と、民間で臨機応変に対応していく部分が必要になってきますので、観光協会もぜひとも地域の取り組み強化していきたいなと考えてるところです。

◎依光委員 要請ですけれども、観光協会によっては過去これまで観光事業者が少なかったりして、ある意味観光以外の方が入って観光協会という形をつくっているところもあるし、今商工会が物すごくコーディネーターとか入れていろいろやっている。観光もある意味そのお金を稼ぐという部分でいくと、商工会と観光協会とかそこも重なってくるし、実はそのメンバーも理事兼任みたいなところもあるので、何かもしその観光協会として弱いところがあるのであれば、何かうまくコーディネートして、結構観光協会残念やなと思うのが、いろいろとノウハウを持った方がやめてしまう。お給料の面とかもあつたりしてやめてしまうので、そこら辺、商工会がちょうど今力入れてる時期でもあるので、何か観光協会も一緒になってできるようなことも視野に入れていただければと思います。

◎土居委員長 それでは地域観光課を終わります。

#### 〈おもてなし課〉

◎土居委員長 次に、おもてなし課を行います

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

◎石井委員 バリアフリーの窓口を来年を見据えてということなんですけれども、そのバリアフリーツアーセンター、日本バリアフリー観光推進機構、そこの参加も考えているんですか。

◎谷脇おもてなし課長 バリアフリー推進機構のバリアフリーツアーセンターの参加になるかどうかということも、今年度いろんな形でのどんな窓口がいいのかといったことを民間の方々と一緒に検討していきたいと思っております。

◎石井委員 わかりました。既にいろんな情報が集まっていますので、窓口をつくるに当たって、その機構の皆さんの今までやっている相談のあり方とかも参考にしてもらったらいいのかなと思うし、窓口をつくるに当たって新たな雇用が生まれるのかなと思いますけれども、ぜひ、障害者の皆さん、実際に窓口の方が障害者の皆さんであれば、いろんな施設を見て回るときに実際だとやっぱり難しいということがよくわかるということなんかもツアーセンターでよくやっています。四国は新居浜だけでしたか、いろんなところとつながって、高知県全体を網羅できるような形でいい窓口をつくってもらいたいと思います。

◎谷脇おもてなし課長 昨年度の現地調査におきましてもバリアフリースターセンター推進機構から講師の方に来ていただいたりとか、高知県が行っていますバリアフリーの調査につきましても御助言等いただきました。これからも実際の現地調査にもいろんな障害のある方にも御同行いただいたりとか、そういった障害のある方あるいは高齢者の方の視点というところもしっかりとりながら、現地調査を行っていきますので、来年度窓口を設置しましても、また、バリアフリースターセンターとの連携とか、そういったことも含めてしっかりと検討していきたいと思っております。

◎石井委員 ちなみに、場所はまだ全然決まっていないですか。

◎谷脇おもてなし課長 いろんな意見がありまして、昨年度から部会を立ち上げて検討しているのですが、例えば、駅前にあるとさてらすの中にあると、観光客の方が来やすいのではないとか、あるいは町なかで既にもう車いすの貸し出しをしているところもあります。いろんなところを今想定して、他県の事例とかを収集しまして、その中で今年度決めていきたいと思っております。

◎大石委員 観光ガイドは非常に大事だと思うのですが、大体、全体で今どれぐらいガイドさんいらっしゃるのかなというのと、あと、なった後、そのモチベーションを維持するのが非常に濃淡があるといいますか、難しい部分もあるかと思うのですが、定着率みたいなものがどうなっているのか、あるいはそのモチベーションを維持するために何か、報酬なのか、例えば、ランク分けするとかいろいろあるかと思いますが、そのあたり何かお考え、あるいは取り組まれていることがあったら教えていただけませんか。

◎谷脇おもてなし課長 観光ガイドの皆様には、大変高知県の観光、魅力ある御案内をしていただいております、とても高知県観光の振興に御協力いただいております。現在、高知県の観光ガイド連絡協議会を設置しております。その協議会には、今現在で29団体の方が御加入をいただいております。そのほかにも御加入いただいていない団体まだありますけれども、高知県が把握している段階で大体40団体を超えるぐらいの観光ガイド団体があると思っております。

こちらで把握している観光ガイド連絡協議会に加入しております平成30年4月1日現在の数字にはなるのですが、会員数としましては1,200人を超えるぐらいになります。た

だし、実際稼働しているとか御案内していただける方は400人を超えるぐらいの数字になっております。お仕事をお持ちであったりとかいろいろな御事情で、登録はしていただいているのですけれども御案内できるのがそれぐらいというところが課題になっておりますので、少ないガイド団体のところでどのようにガイドをしていくのか、そういったこともこのガイド連絡協議会の連携強化の中で、あわせて今現在とりに行っているところです。

◎大石委員 今後、そのモチベーションを高めていくような取り組みといたしますか、そういうのでお考えになっていることがあれば。

◎谷脇おもてなし課長 モチベーションといたしますと、先週もガイド連絡協議会の総会がありまして、その中でガイド団体から、例えば、ガイドをするときの料金とか、そういったところもモチベーションにつながってくるというお話もありました。ただ、一つの団体だけ幾らの料金にするってところは、ほかの団体との横並びとかいろいろな中で難しいところもあります。そういったことも連絡協議会で例えば、エリアの中での統一料金であるとか、あるいはどうやったらガイドに多くの方に入ってもらったりとか、そんなことについてのお話がありました。

県は、観光ガイドのアドバイザー事業を昨年度からやっております、これまでの連携とか皆さんの交流だけではなく、専門的なアドバイスを受けたり、あるいは少し地域のほうにお金が落とせるようなそういった周遊コースの作り方とか、そんなことについても、ガイドのアドバイザーを直接派遣するようなそんな取り組みを進めることによって、モチベーションを高くしていただきたいと思いますと思っております。

◎大石委員 もう1点。小さい事業ですけれども、このモバイルWi-Fiルーターですけれども、貸し出し率みたいなものはどれぐらいなのか、あと、何かそのまま持って帰って海外へ帰ったとか、そういうトラブルみたいなものはありますか。

◎谷脇おもてなし課長 モバイルWi-Fiルーターの貸し出し率は、実際観光案内所に来られた方皆さんの数字とそれに対する貸し出し率になるかと思いますが、その数字は持ち合わせてはいないですが、昨年度の状況で言いますと、モバイルWi-Fiルーターは高知県内で250台ぐらいが貸し出しされております。そのうちの半分ぐらいが観光案内所で貸しています。

返ってこなかったケースはありませんでして、これを導入するときに話があったのですが、外国でそのモバイルWi-Fiルーターを使うことができなくて、結局それがごみになってしまう可能性があるのも、事業を導入する前から事業者の方からお話もお伺いしましたが、他県でもこれを持って帰るとかそういったケースは余りないです。

また、お返しできる場所が日本国内の例えば、成田空港とか関西国際空港でもお返しすることができますし、あるいは宅配便でも返すことができる、そんなふうに返し方についても利便性を図っておりますので、そんなことが返すときのトラブルがないことの一因で

はないかと思っております。

◎土居委員長 おもてなし課を終わります。

以上で観光振興部を終わります。

#### 《土木部》

◎土居委員長 それでは、土木部の業務概要を聴取いたします。業務概要の説明に先立ちまして、幹部職員の紹介をお願いいたします。

(部長以下幹部職員自己紹介)

◎土居委員長 それでは、最初に、部長の総括説明を受けることにいたします。なお、部長に対する質疑は、各課長に対する質疑とあわせて行いますので、御了承願います。

(総括説明)

◎土居委員長 続いて、各課長の説明を求めます。

#### 〈土木政策課〉

◎土居委員長 最初に、土木政策課の説明を求めます。

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

私から、総合評価方式の県内企業の活用についてですけれども、平成29年から、1次下請が県内企業で、または元請が県内企業で自社施工であれば追加配分、総合評価で、そういう施行をしてきたと思うのですが、平成29年2件をやっていたと思うのですが、その評価がどうだったのか、そして令和元年度はどうなのか、教えていただきたい。

◎坂本参事兼土木政策課長 今時点で御質問にお答えできる資料が整っておりません。お時間をいただけたらと思います。

◎土居委員長 後ほどお願いします。

◎石井委員 この入札制度の変更について建設協会とかいろいろお話をされて、この4月からということなんだと思うのですが、どんな御意見がありますか。

◎坂本参事兼土木政策課長 昨年度、協会の皆さんと意見交換の場を何度か持たせていただきまして、各支部を回った御意見、それから全体の役員の皆様の御意見をいただきました。ただ、協会としましては、AランクからB、C、Dとさまざまな立場の方がございますので、全員が一致というわけにはなりませんけれども、おおむね皆さんのを集約したところで改正させていただいたところかと考えております。

◎石井委員 協会というか、その土木業者も少なくなっている、それから技術者も少なくなっている。土木のほうも県の職員も、この経常的経費を見ても少なくなっているのかなと思いますので、ある程度発注事業数をまとめていくっていうのはよくわかって、もうそこしかないのかなという気はしますけれども、災害対応とかも含めて、どんな推移かわかりませんが、人数も減っていて非常に大変じゃないかなと推察できます。それ



で、協会も大変なんだろうなと思います。社会基盤を進めたいのですけれども、そこに対する全体のマンパワーとか会社の経営の体力とかそういったことも含めて、それから発注者側の技術力とか体制も含めて、この強靱化の3年間だけで終わるのではなくて、この先事業費をどんどん伸ばしていきたいとすれば、その先を見つめた人員の確保というか、それから建設協会の体力を上げていくような方策など考えていかなきゃいけないのかなと思いますので、そういったことも含めて、ぜひ、土木部の皆さんにはしっかりと、一人一人の負担は大変だと思うのですけれども、何とか支え合って頑張ってもらいたいと思います。

◎坂本参事兼土木政策課長 土木部もしっかり人員体制整えていけるように整備していきたいと思いますし、協会の皆さんにもできるだけ負担のかからないように、今の制度が果たしてそれでいいのかということもまた改めて御意見もお伺いしながら、見直しも含めて、今後、検討させていただきたいと思っております。

◎土居委員長 では、土木政策課を終わります。

ここで15分ほど休憩といたします。再開は午後3時。

(休憩 14時45分～15時0分)

◎土居委員長 休憩前に引き続き委員会を再開します。

〈技術管理課〉

◎土居委員長 次に、技術管理課を行います。

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

(なし)

◎土居委員長 技術管理課を終わります。

〈用地対策課〉

◎土居委員長 次に、用地対策課を行います

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

(なし)

◎土居委員長 用地対策課を終わります。

〈河川課〉

◎土居委員長 次に、河川課を行います

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

◎石井委員 和食ダムのその節理面の上のほうのは、もう掘削を開始しているんですか。

◎汲田河川課長 2月から掘削を開始しております

◎石井委員 一応、節理面を確認しながら、掘削しているということですか。

◎汲田河川課長 そうです。掘るごとにボーリング調査などをしまして、また、国の専門機関の方に判断を仰ぎながら、しっかり状況を確認しながら掘削しています。

◎石井委員 この想定のところきちんとあるということを順次確認しながら、下がってるといふことですね。

◎汲田河川課長 想定どおりというわけにはいきませんが、おおむね、そういうものを確認しながら、これ以上ないということをしつかり確認して進んでいるという状況です。

◎土居委員長 河川課を終わります。

#### 〈防災砂防課〉

◎土居委員長 次に、防災砂防課を行います。

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

◎黒岩委員 この予算の中で1の4の砂防等基礎調査費ですが、前年度4億3,000万円、今年度少ないですけれども、前年度、どういう調査をされたのか。

◎松下参事兼防災砂防課長 この調査では、家の裏の地形の勾配ですとか、あと谷にどれぐらい土砂がたまってるかということ調査いたしまして、人家等に影響のある範囲、どれぐらい土砂が人家等に被害のおそれがあるかを調べておりまして、実際の作業は測量とかが主な作業になっております。

◎黒岩委員 県下で何カ所ぐらいやりますか。

◎松下参事兼防災砂防課長 現時点おおむね1万9,000カ所程度の土砂災害のおそれのある区域があると考えております。

◎黒岩委員 それで、調査結果をもとにしてこれは厳しいなところについての対策は今後取り組んでいかれると思うのですが、そういう分析、結果を踏まえた対策は今後どんなスケジュールでやられるのですか。

◎松下参事兼防災砂防課長 今回、土砂災害のおそれのある箇所を調べて、今後、さらにそれを指定して、皆さんに知っていただくという作業をしていきます。それをいたしますと、皆さんから避難、警戒避難等を行うにしてもハード対策が必要な、堰堤をつくらないと避難がうまくいかないような場所があったりとか、いろいろな御要望をいただいておりますので、いつからそういうことをやるということではなくて、今調査を進めておりますが、調査や説明会をして順次皆様のそういった意見を拾い上げながら、できることをやっていきたいと思っております。

◎土居委員長 それでは防災砂防課を終わります。

#### 〈道路課〉

◎土居委員長 次に、道路課を行います

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

(なし)

◎土居委員長 道路課を終わります。

#### 〈都市計画課〉

◎土居委員長 次に、都市計画課を行います

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

◎依光委員 都市計画の基礎調査についてですけれども、先ほどもありましたとおり、人口とか産業とかを調べて適切に都市計画がいつてるかどうかということだと思えますけれども、予算もふえてますけれども何か変わったことがあるのですか。

◎小松都市計画課長 今年度1,300万円ほどふえております。これは基礎調査の一環としまして長期未着手路線、いわゆる都市計画を決定した後に20年以上経過してもまだ着手できていない路線がございます。それらの路線につきまして、改めてまた交通量なりのネットワークを調査して、いわゆる今後の方針、場合によっては廃止ですとか変更ですとか、あるいはやはり存続してぜひ整備するというのを今年度調査をしたいと考えております。その分が追加になってます。

◎依光委員 道路の今後の計画の基礎調査だということと思えますけれども、自分が興味があるのが、以前からも課長とはやりとりもさせてもらっているところで、集落の維持というところで、特に小学校区の人口動態で、当然市町村が人口ビジョンもつくってやっていることではあると思えますけれども、一定南国市に権限移譲があった分で、南国市も問題意識を持って集落維持ということで取り組んできたんで、そこら辺がどうなのかをきょうお聞きしたいのと、また、これも情報提供みたいな話ですけれども、香美市の調整区域のかかっている山田ですけれども、5つ小学校があって、あけぼの街道とかはすごく便利になった関係で山田小学校はもうほんとに一杯な状況なんです。一方で、中央東の保健所とか特別支援学校のある舟入小学校であるとか、あと工科大のある片地小学校、あのあたりがすごく生徒が減ってきて、片地で聞いて驚いたのが、工科大の近くということで普通やったらそれなりに大学の都市ということで人口がふえてきてしかるべきなんですけれども、小学校の1年生が入学したのが3人という話を聞いて、このままやったら小学校の維持もしんどい。それ自体はやっぱりその調整区域がかかっているんで、新しく入ってくる人が少ないってということもあって、問題意識を持っているのです。

そこで南国市とかが小学校区ごとにいろいろと何とかしようという思いで権限移譲もありましたけれども、そこら辺は順調にいかれてるんでしょうか。

◎小松都市計画課長 まず、南国市の規制緩和による実績です。平成30年4月から権限移譲しまして、それが約1年間開発許可やる中で新しい、いわゆる規制緩和した結果、許可になった件数も数は聞いております。昨年度及び、今年度の2年間の実績を今後の参考にさせていただきたいということで、南国市にも分析していただいて、それを共有していただくということをやっております。共有した後は、広域の都市計画を持っています高知市ですとか香美市、それからの町にも共有して、今後の規制緩和の議論をしていきたいと考えています。

先ほど言われました香美市の現状、山田小学校はふえて、片地、舟入の校区が減って、特に片地は工科大周辺という立地でありながら減っている、そういう現状をきのう機会がありまして、香美市の方とお話をさせていただく中で、まさにそういう話を聞かせていただいたところです。その中で例えば工科大を中心とした何か、まちづくりといいますか、そういうことを香美市もぜひ考えていきたいという話はお伺いしました。

そういうことも含めて、南国市の実績ですとか現状をまずはこれからしっかりと議論して、県・市連携して考えていきたいと考えています。

◎依光委員 要請という形ですけれども、都市計画課として、全国に先駆けて権限移譲を含めていろいろチャレンジしていると思うのです。法律なので全国的にこういう問題はあると思うのですけれども、集落の維持という視点と、それと既存宅地も本当はいろいろ活用できる形に大分権限移譲もされている、権限緩和、規制緩和もしているようなので、そういうのも含めて、小学校がなくなると地域自体が寂れるので、当然香美市なりが地区計画をつくって工科大周辺の、というのが筋ではあるのですけれども、また、そういうところも調査の項目の中で今後やっていくとかを含めて、市町村が人口ビジョンをつくっているので、連携もしていただきたいと要請をしておきます。

◎小松都市計画課長 まず、南国市も含めて個々との協議もそうですし、今度は4市町集まった中での協議の場も設けて、ぜひ、しっかり議論をしてやっていきたいと思えます。

◎塚地委員 御説明いただいたはりまや町一宮線の話なんですけれども、一定工事アドバイザーの皆さんから結構歴史的な遺跡の部分もきちんと大事にしたものという御提言もあって、それで設計の変更でやり直すというか、手を加えておられるのだと思うのですけれども、スケジュール的にどういう状況になるのかと、設計の途中段階でもその工事アドバイザーの皆さんの御意見を聞きながら、一定変更させていくのか、そのやり方とスケジュールみたいなことを教えてもらえませんか。

◎小松都市計画課長 昨年度立ち上げました工事アドバイザー会議の中で、実際に例えば、現地にあります石積みの復元方法ですとか、あるいは歴史だけでなく希少動植物に配慮した干潟の作成とか、具体的に各種専門の方にお伺いしながら、並行して具体の設計を行っているところです。前回、3月の末に第2回アドバイザー会議を開きました。その2回

でいただいた宿題を今検討して、次回をまた来月あたりに何とか1回開催して、委員の方の意見を聞く段取りをしております。最終的には、アドバイザー会議で具体的になった工法について、母体でありますまちづくり協議会に報告して、その後に地元説明を行うという形になっております。何月何日というところまでではないですが、それらを何とか年度内に段取りつけて、工事を年度内には着手をしたいというスケジュール感です。

◎塚地委員 工事アドバイザー会議の皆さんの御意見は結構、先ほどおっしゃった希少動植物のことや遺跡のことも含めて大事にしながらやってくださいという意見が結構濃厚な御意見だったので、そこは県が基本的にお願いをしたことでもございますので、県として委嘱もされて提言も受けてやっていただいたということですから、そこは県の丁寧な対応も大変私どもも評価もしておりますし、大事に進めていただきたいとお願いしておきます。

◎小松都市計画課長 おっしゃるとおり、県からお願いして立ち上げた会議です。当然そこで出た意見というのは最大限反映してやっていきたいと思うし、我々自身もやはりつくる以上は、後々、ほんとにえい道になったねと言われたいという思いも、もちろんありますので、しっかり議論をしていいものをつくるように頑張っていきたいと思えます。

◎土居委員長 都市計画課を終わります。

#### 〈公園下水道課〉

◎土居委員長 次に、公園下水道課を行います

(執行部の説明)

◎土居委員長 質疑を行います。

(なし)

◎土居委員長 公園下水道課を終わります。

お諮りいたします。以上をもって、本日の委員会は終了とし、この後の審査についてはあすに行いたいと思えますが、御異議ありませんか。

(異議なし)

◎土居委員長 それでは、以降の日程についてはあすの午前10時から行いますので、よろしくお願ひいたします。

これで本日の委員会を閉会いたします。

(16時10分閉会)